二〇二一年九月一一日

折り取れば須臾にほうけて芒の穂　はく子

伊吹嶺は雨に烟ぶるや蕎麦の花　凡士

雨やんできしと窓辺の昼の虫　むべ

芒原銀の波追ふ雲の影　はく子

黒帯の昇段試験子等さやか　かかし

行くほどに濃くなる靄や花野道　わかば

屋台に灯点る博多の秋の暮　凡士

防災日胃薬使用期限切れ　なつき

クレヨンの落書き残る秋扇　素秀

秋涼し娘の黒き髪を結ふ　むべ

ひとかけの雲甌穴の秋の水　愛正

さやけしや母校に古りし礼拝堂　むべ

白露踏みゆく山宿の朝散歩　わかば

一列に帽子の進む芒原　はく子

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年九月一二日